

平成 29 年度第 1 回総合教育会議 議事録

1. 開会日時 平成 29 年 7 月 12 日（水） 14 時～16 時 32 分

2. 会議場 松浦市役所 4 階 第 4 委員会室

3. 出席者

松浦市長 友広 郁洋

松浦市教育委員会教育長 今西 誠司

〃 教育委員 島田茂明、市原 義光、白石しのぶ、平原 章宏

〔事務局〕 学校教育課 黒川 政信

教育総務課 星野 真嗣、 宮崎 直人

生涯学習課 近藤 寿一

文化財課 内野 義

〔関係課〕 子育て・こども課 土谷由子

4. 内容

(1) 市長挨拶

(2) 教育長挨拶

(3) 総合教育会議について

(4) 協議

「教育のまち 松浦」の確立に向けて

① 市民あがての読書活動推進について

② 市内小中学校への配当予算について

③ 郷土を誇りに思う歴史教育の推進について

5. 傍聴人 無

6. 発言の詳細 以下のとおり（要点記録）

【発言者】	【内 容】
教育総務課長	ただ今から平成 29 年度第 1 回松浦市総合教育会議を開催いたします。はじめに、友広市長がご挨拶申し上げます。
市長	皆様、こんにちは。平成 29 年度の第 1 回松浦市総合教育会議をお願いしましたところ、皆様ご多忙の中にご出席をいただき厚くお礼申し上げます。 5 月 13 日から約 40 日間、まったく雨が降らないということで、農家の方々など大変ご苦勞をなされたわけですが、やっと雨が降ったということで、ほっとしたのも束の間、先日から記録的な豪雨に見舞われまして、大きな災害が発生したところでございます。特に北部九州の災害が大変なものでございまして、不幸にしてお亡くなりになられた方々に、心から哀悼のまことを捧げますとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げたいと思います。また、被災地で自衛隊をはじめ、多くの方々が懸命の救助、救援活動にご尽力されているということで、こういった方々にも敬意を表したいと思います。 松浦市におきましても 7 月 6 日から、消防署職員を派遣しまして、緊急消防援助隊ということで、1 班 6 名を派遣して、現在も続けておりま

<p>教育総務課長 教育長</p>	<p>して、東峰村、一番被災がひどかった地域に入りまして現在、救援、行方不明者の捜索にあたっているところでございます。</p> <p>一方、市におきましては、8月31日まで市役所において義援金の募集をいたしておりまして、市民皆様から暖かいお気持ちをいただけたらと考えてお願いしております。この募金につきましては日赤を通じまして、被災地へお送りしようと思っておりますので、委員の皆様にもご協力いただければと思っておりますのでございます。</p> <p>総合教育会議でございますが、平成29年度の教育委員会の主な事業と教育委員会体制ということについては、前回2月のときに、協議いただいたほか、政策企画課から松高支援事業について、皆様に報告をさせていただきました。ご承知のとおり、松高は定員をオーバーする応募があったという成果をあげることができたことについても、皆様方に厚くお礼申し上げるしだいでございます。</p> <p>私としましては、新しい市になりましてからこれまで、どちらかといいますと予算の配分が「ハード」の予算が主ではなかったかと思っております、これからの松浦が目指します「住みたいまち、住み続けたいまちづくり」ということになると、「ハード」から「ソフト」の施策に転換する必要があるのではないかと考えておるところでございます、何が大事かと申しますとやはり「教育」と「子育て」というところが重要ではないかということで、本日は「教育のまち 松浦の確立に向けて」ということで、意見交換ができればと考えております。</p> <p>そういうことで、教育委員の皆様と忌憚のない意見交換にしなければならぬと思っております。松浦の将来の発展は「人づくり」が基本と思っておりますので、ご意見をいただいて、今後の予算編成に役立たせていただければと思っております。まだまだ十分ではございません。鷹島の学校整備も残っております、これは計画的に今後整備をすすめて、耐震化率100%ということにつなげていかなければならぬと思っておりますし、これまで進めておりますICT機器等の整備、学校給食費の助成等は引き続き行っていこうと思っておりますが、先ほど申しましたとおり、本当の意味での「教育のまち松浦」については、どのようなことが必要かということをおもって、やはりそれは、特定の年齢層だけではなくて、小さい子どもから高齢まで、市民全てが「学び」というようなものに取り組んでいく環境づくりが必要ではないかと思っておりますのでございます。</p> <p>その一つとしまして、市民あげての読書活動を行うことが大事ではと思っておりますのでございまして、そういうことも含めまして、ご意見をいただければと思っておりますのでございます。</p> <p>併せて、取り上げて言う訳ではございませんが、やはり「教育のまち松浦」では、やはり、小中学校の「教育の充実」ということについての予算の在り方、併せて、松浦市が誇れる郷土の歴史、元寇というものについても、整備についても、忌憚のないご意見をいただきたいとおもっておりますので、本日はどうぞよろしく申し上げます。</p> <p>続きまして、今西教育長にご挨拶をお願いします。 教育委員を代表しまして、一言ご挨拶を申し上げます。 本日は、今年度の第1回目の総合教育会議ということで、友広市長と</p>
-----------------------	---

教育総務課長

の協議の場を設けていただきまして、誠にありがとうございます。

また、友広市長におかれましては、日頃から教育行政の推進に向け、ハード面、ソフト面と予算の確保にご配慮いただいておりますことに、重ねて感謝申し上げます。

特にハード面では、福島中学校校舎が6月末で終了しました。9月から新校舎での学習ができます。年度末の予定が前倒しになりまして、学校の校舎も、子どもたちも大変喜んでいただいております。

また、今福のスポーツ施設、野球場を兼ね備えたスポーツ施設整備も予定どおり現在進んでおります。

ソフト面におきましては「なぎなたのまち 松浦」を推進するため、ジュニア層の育成を目指して週2回、松浦高校で教室を開いているわけですけれども、私も一昨日、7時ごろ練習を見に行きました。9名の子どもたちが汗を流しておりましたが、指導者には松高の板垣先生、生涯学習課に今年入りました川田主事、あと、松高OBの3名、中には全国で優勝した選手もいるのですが、熱心に指導をしております。将来が楽しみで、今後も部員を増やしていく必要があります。

また、電子黒板などのICT機器が整備されました。御厨、志佐地区の学校では早速授業で効果的に活用されている場面がみられております。今年度中に調川、今福、福島、鷹島に整備するようにしているところです。

文化財課に関しましては、水中考古学研究センターの設置と、センター一長の配置によりまして、鷹島神崎遺跡も順調に進んでおります。今後センター独自の事業が実施、展開できるよう準備を進めているところでございます。

本日の会議では、「教育のまち 松浦」の確立に、3つの大事なものの、議題として取り上げていただき大変ありがたく思っております。有意義な場になるよう、積極的な意見交換ができればと思っております。どうぞ、よろしく申し上げます。

ありがとうございました。それではまず、本日の資料の確認をしていただきたいと思います。

資料に漏れはございませんか。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

まず、協議に入っていただく前に、総合教育会議のメンバーが変わっておりますので、この会議について説明させていただきます。

資料1をご覧ください。

総合教育会議は改正教育行政法が平成27年4月に施行されたことに伴い、各自治体において設置が義務付けられています。

まず、1に記載しております会議設置の目的でございますが、首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図るために、設置されるものでございます。

次の2の会議の概要をご覧ください。(1)①にありますように、会議は「地方公共団体の長は、総合教育会議を設ける。」なっております。

会議の構成員は②に記載されておりますが、地方公共団体の長と教育委員会、これは、教育委員会は教育長及び教育委員ということで、構成

<p>市長</p>	<p>するとなっております。</p> <p>また、③、④に記載しておりますが、会議は今回のように、基本的には首長が招集をすることとなっておりますけれども、教育委員会は、権限に属する事務に関して協議する必要があると思料するときは、協議すべき具体的事項を示して、総合教育会議の招集を求めることができるとなっております。</p> <p>⑤としまして、協議を行うに当たって必要があると認めるときは、関係者又は学識経験を有する者から、当該協議すべき事項に関して意見を聴くことができるとなっております。</p> <p>次に、そのような事案を総合教育会議において協議調整するということですが、(2)①から③に記載をいたしております。①の大綱策定に関する協議のほか、②で教育を行うための諸条件の整備その他地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策に関する協議。③の児童、生徒等の生命又は身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずる恐れがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置に関する協議。この3点が会議における協議調整事項となっております。主に、②についての協議が主になろうかと思っております。</p> <p>次の頁に松浦市総合教育会議運営要綱を参考資料として添付しております。説明は以上でございます。</p> <p>それでは、これから協議に移らせていただきます。議事進行につきましては、松浦市総合教育会議運営要綱第5条の規定により、友広市長が行います。</p> <p>私の方で、協議の進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>それでは、冒頭あいさつで申しましたとおり「教育のまち 松浦」の確立に向けてということを協議の議題とさせていただきます。なお、その内容につきましては、1から3までカッコ書きしておりますとおり、ひとつずつしていければと思っておりますので、よろしくお願ひします。</p> <p>私が最初に申しましたとおり、ハードからソフトへという思いが、今後の市政の方向性でなければならぬのではないかとお願ひしております。</p> <p>ひとつの考えとして、今、ふるさと納税を進めておるわけですが、これまでのふるさと納税は、お礼品がですね、納税をしていただく国民の皆様方への、そういうところがポイントとなっていたわけですが、総務省の指導もございまして、お礼品につきましては、30パーセントを上限としたあたりをということになりますと、全国一律とは言いませんけれども、だいたいそこらへんで寄付がなされていくということになりますと、やはり、その他市町村と競い合って納めていただくとなりますと、ふるさと納税で納めていただいたお金を、どういう活用をするのかというのが今後のふるさと納税の、金額としての成果として反映されることになるのかということになりますと、私といたしましては、まだ全庁的な協議はしておりませんが、ふるさと納税していただいたその使い道というのは、教育と子育てというものに、使わせていただく。今後国民の皆様へ松浦市でのふるさと納税をというところで、展開しやすいのではないかと、そういう思いをもちまして、今回、教育</p>
-----------	---

<p>生涯学習課長</p>	<p>のまち松浦の確立という議題でお願いをさせていただいたところです。なお、参考までに、平戸、佐世保、伊万里と全国でベスト10に入るような自治体に囲まれておりまして、10億とか20億、2ケタの収納なのですけど、松浦市は、28年度7億3千万円ということで、1ケタでございまして、今後も伸ばしていきたいと思っております、そのためには今申しましたような使途ということでの取り組み、教育のまち松浦として、今一番取り組みやすいのは読書活動ではないかと。市民あげての読書活動の推進ということを協議していただければと思っておりますのでございます。</p> <p>生涯学習課と学校教育課から、まず現状を。それから、教育委員会として松浦市として取り組もうとしている蔵書等の計画について説明をよろしくお願ひします。</p> <p>市民あげての読書活動推進に関しまして、資料2-1をご覧ください。基本的なところの現状についてのデータをまとめた資料でございます。概略を説明いたしたいと思ひます。</p> <p>読書活動の推進ということで、冒頭出ましたけれども、「家読」ということで、家庭でのいろんな読書に対する事業と申しますか、そういった啓発のようなものも大事なことになってまいります、松浦市の読書の中核となります市立図書館がございまして、まず、状況につきましてご説明いたしたいと思ひます。</p> <p>資料2-1の1頁です。市立図書館における実際の図書購入額、経費でございます。24年度から今年度と当初予算を載せておりますけれども、そこに書かれているように300万円から400万円程度で推移してきてございまして、昨年度、市立図書館300万円で、寄付をいただいて336万5千円の実績でございました。今年度につきましては、若干上乘せしていただいて、市立図書館に417万円の図書購入費をあげさせていただいております。2番目に、蔵書の数の推移でございます。25年度末で10万9千683点あったのが、28年度末では11万6千315という数字になっておるところでございます。</p> <p>2頁でございますが、貸出数でございます。そこにありますように本館と移動図書館きらきら号と団体、大口でお借りになられるところと分けておりますけれども、24年度で12万4千、25年度、25年度で13万1千ということで、13万冊数あったのですが、26、27年度10万冊に落ちて、28年度末10万5千冊。その下に、グラフで資料を載せておりますけど、一つの要因といたしまして、平成26年度に2、3万冊落ちているのが、当時、図書館資料の運搬回収事業というのを、緊急雇用創出事業がございまして、それでもってさせていただいた経緯がございました。それに伴い、これが平成22年度から平成25年度までの4年間やっていた緊急雇用創出事業でございまして、2名の新たな雇用をしてございました。市内の小学校、中学校、保育所、公民館と約26か所ですね、週に火曜から金曜までの4日間、各コースを巡回するというかたちをとって、返却図書の回収であるとか、団体貸出資料の運搬回収であるとか、点字録音図書資料の運搬回収であるとか、そういったことをやっていたという経緯がございました。なんとか、現場の方からも「また復活させてほしい」との声が出ておりますので、現在、緊急雇</p>
---------------	--

用制度が25年で、それ以降につきましては対応していないということから、残念ながら今のところ、現在の貸出冊数に落ち着いているという状況でございます。次に、きらきら号の移動図書館を利用した貸し出しの状況でございます。見ていただけたらわかりますように、やはり、小学生から中学生が一番多いところで、利用しているということで、足を運んでいただきたいということもありますが、こちらからという形でも市民サービスを充実させる必要があるのではないかと感じているところです。

3頁です。リクエスト予約、相互貸借でございます。直近でいいますと、2700の予約があって、うち、移動図書館を使って、約半分の1400の貸し出しを行っている。相互貸借につきましては、それぞれ図書館に無いものを、お互いに図書館同士で貸し出しを行うということでございまして、松浦の場合は、貸し出しが149冊、貸していただいたのが1166冊。そのうち、1023冊につきましては、県立図書館から貸していただいておりますという状況でございます。ここには書いておりませんが、長崎県立図書館が、新たな図書館が大村に建築中ございまして、平成31年の1月に出来上がる予定でございます。まだ、スケジュールが出ていませんが、暫くの間、県立図書館が閉鎖される状況がございますので、その間の借り受け等のサービスについて、議会等でもご指摘がありましたけれども、一過性の話ではございますので、サービスが低下しないように対応したいと考えているところでございます。

追加資料をご覧ください。近隣の自治体ということで、平戸市と伊万里市の直近の状況について調べた資料です。平成29年3月31日現在で、左から人口、市立図書館、そこが一括して管理している図書館のそれぞれの蔵書数です。伊万里が40万冊、平戸が20万冊、松浦市が11万5千冊です。年間の図書費、図書の購入にあてる予算ですが、3番に書いていますとおりです。

貸出冊数は、記載のとおりです。

図書館に従事する職員の数でございます。平成29年3月現在の数値でございますけれども、伊万里市18名、平戸市12名、松浦市9名で、カウントの仕方は、下の米印に書いておりますように、市の職員と嘱託、パート等で構成されておる状況でございます。そういったところから、単純な数値になりますけれども、人口に置き換えたときに⑥にあるような一人当たり市民へ提供できるような冊数。図書購入に充てられる人口比に換算したときの資料というふうな形になっておるところでございます。一応これが3市の比較でございます。

戻りまして、資料の3頁(2)松浦市教育振興基本計画との関係ということで、基本計画の中で、図書館資料の整備、充実という項目を掲げているところでございますけれども、平成31年度までの目標の蔵書冊数12万1千冊までもっていければということでございます。図書だけではないということで、点数ということを考えておるところでございますけれども、平成28年度の段階から単純に差し引きすれば4,600冊を加えることにより達成されることとなりますが、単純に1年当たりと換算すると、あと2、3年ほどで1千500ほどの登録を目指せばよいということになりますけれども、いわゆる除籍といいますか、図書の魅力

としましては、中身に応じてということになりますけれども、情報の古いようなものを、いつまでも棚に置いておくわけにもいかないということがございます。そういったことから常に新たな情報、新たな書籍、雑誌等を含めてですが、入れていく作業が大変重要になってくるということから、単純に数字というのが、たったこれだけということでは表せませんが、基本的には足りていないという状況にあると。

貸出の目標につきましては、基本計画の中に14万9千冊と書いておりますけれども、これは近いところまでいっていますが、まだ達成されていないということです。基本的には図書に親しむと言いますか、啓発と言いますか、そういうところも大変重要なことになってくるかと考えております。

3番目に「目指すべき図書館のあり方」ということでまとめておりますが、組織間の共同ネット枠の形成は必要ということで、地域ごとに情報提供の拠点を置きたい、相互につながった情報ネットワーク網を構築すると。市立図書館を本拠地として、各地域にあります公民館の図書室等の拠点を結んでいきたい。或いは、学校図書室との繋がりを設けていって、図書館とか公民館とか学校図書室それぞれで読書できる環境をネットワークでつないで、いろんな情報を発信したりすることが必要ではないかと考えております。

図書館の休館日、開館時間の設定ですが、利用者、市民の方々にわかりやすい休館日の設定が必要だろうと考えているところです。現在は、毎週月曜日と第2木曜日と最終木曜日が休館日となっております。4頁にありますが、図書館の管理規則を掲載しています。第5条で休館日の規定があるのですが、このあたりをなんとか、市民の皆様、利用される方々にとってみれば、もう少しわかりやすくといいますか、休館日を減らす取り組みがいいのではないかと現場の声があがっているところです。理想としては、年末年始以外は全て開けられないかと思っているところがございます。この件につきましては、4番目のスタッフの充実というところで、詳しく述べたいと思います。

3番目の魅力ある蔵書構築ということで、いわゆる、蔵書の活発な新陳代謝を行う必要があるということで、先日、図書館運営協議会がございましたが、図書館が魅力あるものになるためには、それなりの魅力がある、品揃えがあるといいますか、中身の充実が必要になってくるといいますか、新聞で申しますと全国5紙揃えたいということで、産経新聞と毎日を購入したい。それから、雑誌のタイトルを増やすこと。現在20タイトルで、多い時には70タイトルあったのですが。「ちょっと図書館に寄ってみたい」という雑誌がなく、若い人たちを含めて足が遠のいているのではないかと。まずは、図書館に立ち寄って、色々な雑誌を目にすることにより、本を借りたり、中の色々な貸し出される図書に目を向けたりするような、誘導といいますか、そういった取り組みが必要だというご意見をいただいているところがございます。また、男性向けとか若者向けの雑誌が少ない、或いは、視聴覚資料につきましては、器具類が不具合になったり、単価が高額のため購入できなかつたりしているところがございます。児童書につきましては、利用頻度の高いものは、汚破損が目立ってきておりますし、一般書につきましては、単価が高額

で購入しづらい分野のものを少しずつ揃えていければと。法律関係や趣味の本などを定期的に入れることによって、情報の古いもの等については、除籍していきたいと。未だに無いようなお店の情報が載っている本が、そのままおいてあるなど、やはり、新しい情報を入れるような書籍の整備の仕方が必要になってくるのではないかと考えているところでございます。

4. スタッフの充実でございます。現在、松浦市立図書館は移動図書館を含めて、9名のスタッフでございます。パターン1としまして、月曜日以外は開館とした場合は、13名が必要になってくる。パターン2は、月曜の平日以外開館、月曜の祝日閉館した場合、同じく13名程度確保していただければという要望が出ております。パターン3、いわゆる全日開館、年末年始以外は全て開けて、中でローテーションを組んで人を回すとした場合は、15名程度まで増やしてもらおうと、仕事が一番回るというような現場の声を聞いているところでございます。いずれにせよ、市民サービスを低下させない魅力ある図書館をつくるためには、スタッフの充実が必要になってくると思っています。

最後に、移動図書館の更新ということでございます。運行開始から16年経過しています。貸し出し冊数を伸ばしている要因が移動図書館です。各地域まで足を運んで本を借りていただくことで、移動図書館は重要なものですので、図書館車の充実を図っていく必要があると思っています。

子ども読書推進計画が来年度までとなっておりますので、平成31年度から第2次子ども読書推進計画を策定する必要があると考えております。その中の中核となるのが図書館の役割でございますし、併せて、市民の意識を啓発するための様々な取り組みも必要になってくると思っています。市民の方へのアンケート調査であるとか、「家読」の推進であるとか、ある程度、調査結果を踏まえながら、松浦市の子どもたちの読書に関する環境づくりといえますか、しっかりと大きく取り上げていく。そのためには、図書館の充実を図っていく必要がありますし、図書館運営協議会の開催であるとか、図書館を利用いただいているボランティアグループも「自分たちも協力できるところは協力していきたい」との意見も頂いておりますので、こういったところを利用していかとか、学校、公民館と連携していかとか、そういったソフト面をやることによって、しっかりとした消耗品の増、或いは職員数の増員についてご検討をいただけたらと思います。よろしく申し上げます。

以上でございます。

学校教育課長

資料2-2には、市内小中学校の学校図書館の図書蔵書数、蔵書率を掲載しています。学校教育課におきまして、学校図書館整備10か年計画を平成25年度から立てて、とにかく学校図書館の本を、これは全国で決まっているのですが、こういう規模の学校は何冊というのが決まっています、その率をとにかく上げようと、100%にもっていこうということで、努力を行っているところです。また他に、図書館に新聞を置いて、学習センターの機能を高めるということでやっていますがおかげさまで、予算もつけていただいている関係で、新聞はどの学校にも配

市長	<p>置できています。</p> <p>また、「長崎県の子どもにすすめる本500選」としまして、500冊、子どもたちに読んでほしいという本がございまして、小学校で300冊、中学校は100冊なのですが、小学校で1校だけ50%くらいで、多くの学校が100%ちかく揃えてきています。中学校においても、80から90%揃えてきておるところです。</p> <p>そして、最後に、図書支援員さんをおいて、もっと図書室を効果的に活用できるようにしよう、図書室に行きたい図書室にしよう、入りやすい図書室にしようということで、図書支援員さんを平成26年度から3名配置していただいて、頑張ってくださいとお願いしております。</p> <p>ただ、最初に申し上げた図書館の蔵書数、その資料2-2で見させていただきたいと思うのですが、平成25年度末の蔵書率が、小学校が57.1%、中学校が61.7%。トータルで59.1%です。左側2番目の平成26年度末でいきますと、ちゃんと予算をいただいて、上がらなきゃいけないところ、一番下には書いておいて、59.1%から57.8%に下がっています。結局、学校図書館にはものすごく古い本がいっぱいありまして、廃棄も進めているわけです。28年度末が69.2%。ようやくここまできまして、3年間で10%伸びがみられます。ですからあと、10年くらい経てば100%に行くのかなと予想もできますけれども、廃棄もしていきますので、なかなか。追いつくのかなと、正直な気持ちがあります。</p> <p>廃棄の理由として、廃棄の基準が全国で定められておりまして、「何年間でもう古い本は捨てなさい」とかあり、こういう理由で廃棄をしております。</p> <p>松浦市の教育振興基本計画では、平成31年度に蔵書率を85%という目標を立てております。あと2年ですから、ちょっと厳しい状況かなと。図書購入の予算がもっともっと増えればいいなと思っております。</p> <p>最後に、図書支援員さんの配置によって、学校職員だけでは手が回らなかった図書の整理を進めることができっております。図書室の環境もかなり良くなりまして、子どもたちが図書室に足を運ぶ回数というのも増えてきております。</p> <p>学校図書館の大きな2つの機能。一つは、読書センター的機能。もう一つは、学習センター的な機能。両方ともあがってきております。また、支援員さんの効果は数値においても明らかになっておりまして、来館者が増えたでありますとか、貸出冊数も増えたとか、そういう数値にも表れてきています。</p> <p>ありがとうございました。今、生涯学習課と学校教育課から、現在の実態ということにおいて説明いただいたところです。議論を2つに分けていきたいと思っております。</p> <p>今の説明について、何かご意見、ご質問があれば。今の説明に対するご質問を受けた後に、議論をしていきたいと思っております。</p> <p>今、図書館と学校図書というところで、課題はもうはっきりしておるわけがございまして、蔵書数の不足といいますか、そこらへんの課題といいますか、「読む仕掛け」といいますかね、そういうことについての取り組みというところに課題があるというふうに思うわけがございまして。</p>
----	---

島田委員	<p>これは蔵書数と読む仕掛けとは両輪であろうというふうに思っております。そのためには、私の指導もあろうとは思いますが、なかなか予算がですね。前年度比何%カットとか、何%増とかと、予算措置が一般的なこういう経常的な予算は、そういう編成がされてきておりますし、しておるわけですから、やはり、今後、抜本的とはいかなくても、抜本的な予算措置を講じないと、予算確保ということが難しくなってくるということから、今はやはり、予算編成を切り替えるためには、どういうことが必要なかということになると思っております。トップダウン的な方向ではいけないと思っておりますが、やはり、そういう手法も用いないとなかなか難しいのではないかと思っております。私の方からは次第に揚げました「市民あげての読書活動推進」のためには、キャッチフレーズを応募していただき、市民が「市民の読書活動をやっているじゃないか」というようなことを打ち上げて、「蔵書数を増やさなければ」、「そのためには予算が必要だ」ということですね。予算編成の切り替えをするといいますか、そういう手法が必要ではないかと思っております。図書の本数を増やす、予算を上げるということでは、今話がありましたとおり、平戸とか伊万里とか真似する必要はありませんけど、あまりにその差が大きすぎるのを縮めるためには、今言いました手法でないといけないのではないかと思います。</p> <p>今、私が一方的にお話しいたしましたけれども、こういったことを含めて、皆様方から「こういう取り組みをした方がいいのではないか」、「こういう方法がいいのではないか」といった意見をいただければと思います。</p> <p>先日、福島中学校のお別れ式のなかで、NHKの松尾剛アナウンサーの講演を聞きました。その中で、ある登山家について、その方は滑落事故にあわれまして、助けるために旦那様が、指を10本、凍傷で落としたと。命をかけて奥様を守られたという話でした。インダビュウをされた松尾アナウンサーが「シブ5時」という全国放送をやられているのですが、その時にそのことを紹介した。そうすると、それを観た方からの、ある若者からの手紙が来たそうです。その中で、子どもが不登校だったと思っておりますが、親子のコミュニケーションができていなかったといえますか。たまたま番組を観ていたのでしょうね、登山家が本を出していたので、その本を読みたいということで、父親にお願いをして、なかなか手に入らないものだから父親にお願いをして、本を読んでいる。その後「お父さんも読んでみて」と父親にもその本を勧めた。本の効果といえましょうか、効果があった。コミュニティ障害、不登校といったものが解消された。そういったことを講演で紹介されました。</p> <p>読書ほど効果が大きい。市長もおっしゃった「子育て」にも本というのは効果があるということを感じました。</p> <p>実際的な取り組みとして、松浦市の貴重な人材だと思います、松尾アナウンサーというのは、いろいろなところで経験をされています。いろんな引き出しを持っている。この読書活動推進に関してもだし、他のことに対しても。そういう人たちを呼んで市民に話を聞いてもらう、という方法もまたいいのではないかと感じたところです。講演会とか読み聞かせ活動とか。人材活用も一つの方法ではないかと感じました。</p>
------	--

<p>平原委員</p>	<p>自分の家庭を考えると、学校に行く前は、結構、読み聞かせとかやっていた記憶があります。学校へ行くようになって、もう、子どもの自主性というものに任せていて。まあ、そういうことがあってかどうかはわかりませんが、割合自分の子どもは本が好きだなという感覚はありました。</p> <p>今、私自身、年と共に寝れなくなってきました、夜中に起きて、以前は結構本を読んでいました。最近、目も乏しくなってきました。やはり、どこかで習慣づけというか、きっかけをつくってあげて、「本は面白いよね」というか。それを、じゃあ、どうしましょうということだと思のですが、今、こういう「家読」を見ていましたら、学校では、読書する時間をつくっていらっしゃるようなお話も聞いておりますので、市内というか市民の皆様にも、たまには、月に1回とか、週に1回でも、30分でも、本について話をして、テレビを消して、そういう機会をつくることができれば、素晴らしいと思うだけで。じゃ、実際どうするのかというと、全く知恵が浮かびません。</p>
<p>白石委員</p>	<p>本は大好きなのですが、この「家読」というのはあまり知らなくて、今、こう書いてあるのですが、家庭で子どもたちが本を読まないっていうのも、家庭ももう。親が読むところは子どもも小さい頃から本を読むと思います。それで、家庭、大人の人たちが読む習慣というか。</p> <p>一つの案として、どうなるかわかりませんが、市報の裏に「市民リレー」ということで、人を紹介するコーナーがあります。市報にスペースを設けて、「読書リレー」のような、その人の心に残る本を紹介してもらおうという感じで。私は、個人的に誰がどういう本に興味があるのかと興味がありますので、ちっちゃなスペースで良いと思います、一人じゃなくて二人でも三人でもいいと思います。例えば、最初は市長さんが一番心に残った本を市報に出されていけば、「こういう本も読んでみたいな」という気持ちになるのじゃないかと思います。</p>
<p>市原委員</p>	<p>「標語を」と市長さんがおっしゃったのですが、私もそう思いました。「本を100冊読もう」みたいな。児童生徒が100冊読んだらその認定証みたいなものを学校から出すような、そういうご褒美つきというようなことを今考えました。</p> <p>先日、中学生が職場訪問に来ました。「何か今、悩みがありますか」と中学生に聞いたら、「悩みはありますよ」ってことだったんですよ。「先生とか親には言えないのですか。友達に言えないのですか」と聞いたら、男の子ですけども、「まあ、そうですね」ってことだったんです。その子に言いました「本屋さんに行ってください」と言ったんです。「本屋さんに行けば、あなたの悩みは全て解決する手段がありますから。是非行ってください。お金が無い時には「ブックオフ」でも「ほんだらけ」でもいいですから、とにかく本のあるところに行って。図書館を含めて、そこで自分が、その悩みを解決してくれるような本を、是非見つけてください」と、そういうようなことを言いました。</p> <p>また、小学校の入学式の時には必ず、教育委員が祝辞を述べるのですが、鷹島のやり方だそうなのですが、その中の話として、子どもに「100円あったら、どうしますか」と聞く。「100円あったら「ブックオフ」に行って、好きな本を、今は100円からありますから、買っ</p>

<p>教育長</p>	<p>た方がいいですよ」というふうなことを言いました。</p> <p>私は、宮部みゆきの時代劇シリーズの今、今年も20冊くらい読んでいますね。その前には、私の高校の恩師が司馬遼太郎を全巻揃えていましたので、私も20歳過ぎから全巻揃えて読みました。それで、うちの親は、本を読まなかった親なのですけれども、恩師の影響で本を読むようになりました。どういうきっかけで、子どもが本を好きになるかわかりませんので。是非、図書館でもそうですけれども、自分でも本を買うということ、新しい本の匂いというものが、非常に素晴らしいものですから、そういう喜びを子どもたちには知ってもらいたいですね。</p> <p>学校で子供たちがたくさん本を読むようになった。どういうことかなと考えて、4つぐらいあるのですが、一つは、新しい本が揃っている。二つ目に、友達同士で本を紹介しあう。そうすると「じゃあ、読んでみようかな」と。三つ目に、学校では読書タイムがある。みんなで本を読む時間、その時は教師も一緒に読むんですよ。だから本が嫌いな子どもでもどうしても読む。読んでいるうちに、嫌いなのがすきになる。だから、同じ時間に読む。あと最後は、図書室に「本は心と頭の栄養」とか、標語的なものも掲示してあって、「あ、そうなのかな」となんとなくそうなるような気分になる。そういった面でも「毎月10日は読書の日」と設定して、防災無線で「今日はみんな一緒に読みましょうね」と流すようにすれば。そういったのもうどうかな、と思いました。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>習慣づけといいますか、きっかけづくりというか、そういうところからがいいのではないかと考えています。子どもたちにきっかけをつくっていくとなると。まず、スタートは子どもたちにどう読書の習慣づけをしっかりとしていくかということあたりからスタートした方がいいのかなと、いうことを思ったんですけど。</p>
<p>島田委員</p>	<p>きっかけづくりということで、実は今日、午前中に本を読む時間があったので。その中で、金沢翔子さんってご存知でしょうか。ダウン症の書道家です。その、育てられたお母さんの手記をですね、お母さんの手記と翔子さんの作品と一緒に載せた本があります。読んでみたら、お母さんはやっぱり翔子さんを産んだすぐは「一緒に死のう」というところまで考えられたそうです。障害児をもった親の気持ち。最初はそうだった。本当にもう、世界で最低の母親というような、最初、その子を産んだときそう思ったんだけど、今は本当に幸せな世界。最高の母親だと、今はそう思えるんだと。というふうなことを書いていました。これはやはり、障害児をもつ親の方々にとっては、ものすごい、やはり応援歌になるんじゃないかなと、いうふうな感じを受けました。ですから、実際、そういう子どもさんとお母さんを一緒に呼んで、松浦市でどこまで世話してもらおうかと。先ほどの人材活用といいますか、そのことも意見として付け加えさせていただきたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>いきなり市民を対象にというのは。まあ、目指すところは「市民あがての読書活動」というところに、「教育のまち 松浦」というところで。目標はですね、そこにあげて。まず、第一段階というのは、子どもたちに習慣づけといいますか、ということから、取り組んだらどうか。幸い、もう、一つの取り組みはなされているわけですから、今後どうしていく</p>

白石委員	<p>かと。</p> <p>今、思ったのですが、今福保育所のことが新聞に書いてあった。じゃあ、小学校から読書の習慣をつけるという取り組みをするのか。例えば保育園あたりからそういうのは本格的にできないと思いますけど、保育園あたりからひとつの取り組みをするというのが望ましい。それをここで決めるわけにはいきませんが。そのへんの考え方というのは。白石委員どうでしょうか。</p> <p>早いことにこしたことはない。私は子どもが小さいときには、本ではなくて、市立図書館に紙芝居を借りまして、読んであげていました。今は、ビデオとかテレビとか色々ありますけれども、紙芝居を子どもを前にして読んでいましたが、やはり、小さい頃から本に親しむ。小さければ小さいほど。</p>
市長	<p>「教育のまち 松浦」の確立に向けて、まずは「市民あげての読書活動」ということをひとつの取り組みとさせていただきたいということについてはご理解いただけますかね。</p>
島田委員	<p>今ですね、言われましたとおり、読み聞かせ。幼児の時から、読み聞かせ。これは大事だと思います。</p>
市長	<p>そういうことにすると、「市民あげての読書活動」をやるということで、まず、全市民をというわけにはいかないから、島田委員がおっしゃたように、小さい頃からの読み聞かせ、そういうことについての習慣づけとなると、保育所、幼稚園といったところからの連携というか。そして、学校に来て、学校から社会人といいますか生涯学習、高齢者という流れ。取り組みはまず、そういうことに整理するというものでいいですか。</p> <p>子育て・こども課長を呼びます。</p> <p>～～ 子育て・こども課長 入室～～</p>
市長	<p>今日の議題が「教育のまち 松浦」の確立に向けての議題の一つとして、市民あげての読書活動を推進してはどうかということで、色々と委員からご意見をいただいて。まあ、蔵書数を増やすというのはお金があればできるわけですが、仕掛けをどうしていくかということで、習慣づけとか、きっかけづくりとかいった話があったわけですが、一度に市民全部を対象にして読書活動をとというのは難しいのではないかと。最初は、習慣づけというのは子どものうちから習慣づけをしていくのが大事ではないかということで話になっています。子どもたちに読書の習慣づけをするとすると、小学生になってからではなくて、保育所、幼稚園のときからが大事ではないかということが、委員皆様方の意見です。</p> <p>保育所、幼稚園と教育委員会、学校現場と一体的に、連携して子どもたちの「読む習慣づけ」を行ってはどうかということです。</p> <p>そういうことについて、子育て・こども課としてのご意見なりを聞かせてほしいと。</p>
子育て・こども課長	<p>現在も検診の場で、市で独自に作成したオリジナルの絵本を配付して、4か月検診と1歳半検診の時に、オリジナル絵本を配付して。そこには図書館の職員も来て、本を読み聞かせることが子どもとの愛着の形成につながって、そして、図書館に本を選びに一緒に行くような、そういう、本を生活の中に取り入れるような習慣がつくように、検診の場でも紹介をしているところです。</p>

	<p>絵本をお配りして、そこで実際に図書館職員の読み聞かせをし、本の面白さとかを教えてくれるし、図書館へ足を親子で運んでいただくようにという呼びかけをして、今は大変喜んでいらっしゃるのですが、それを継続して続けていくことと、保育所での読み聞かせというのは、子どもの8割くらいは保育所に入所している状況です。保育所の活動の中で、導入の場面とか、なにか生活のことを教える場面とか、色々な場面で絵本を使ったり、紙芝居を使ったりエプロンシアターとって物語を話しながら様々な生活の場面を想定しながら物語への導入を図る、そういう活動も保育の一部として必ず毎日取り入れている状況なので、かなり充実をしているのですが、連携となると、保育所では読み聞かせは日常でやっていることです。それが小学校に行ってから、小学校へのつながりというところを、小学校というより家ですね、家庭での読書につながっているかというのは難しいと思います。なかなかそうならないのではないかと考えています。保育所ではたっぷりやっているのですが、家庭での読書につながっているかどうか。もう少し呼びかければ良いのか。</p>
市長	<p>ということで、今日は方向性だけで、あとは生涯学習課と学校教育課、教育総務課と子育て・こども課で、方向性といいますか。今の保育所でしっかりとやっておられるということであれば、今課長が話したように、それをどう家庭にも波及させるかということが一つと、もう一つは、学校につなげていくにはどうしたらよいかということあたりで、整理というか体系的な解決点ができればと思います。</p>
平原委員	<p>放課後教室が学校などであっている場合は、学校の図書室を利用することは可能なのでしょうか。</p>
島田委員	<p>志佐小学校では、放課後教室で、保護者が迎えに来られるまで図書室でやっています。今はどうかな。</p>
子育て・こども課長	<p>今は子どもの家でやっているのですが、子どもの家にもたくさん本を寄贈していただいて、学校に移動して図書館をというふうにはしていませんね。</p>
平原委員	<p>子どもは家に帰ってしまうと、親から「勉強しろ」としか言われないうるんですよ。「ゆっくり本を読みましよう」とかいかない。「宿題しろ」とか。だから、放課後であれば、まだ親と接する前だから、遊びもするでしょうけど、条件は整っているのかなと確認で聞いただけです。</p>
子育て・こども課長	<p>放課後では、できるだけ宿題をやっていくようにしていますね。宿題を済んで帰っているんですね。なので、家では読書をしてほしいというかですね。必ず宿題をする時間があるので、学童に通っている子はそこで宿題を済ませてから家に帰っていますので、家では読書をしているのではないかと。</p>
島田委員	<p>子育て・こども課で「家読」、家庭での読書を推進しているわけではないのですか。</p>
子育て・こども課長 教育長	<p>していません。</p> <p>私も聞きながら、3つできそうだなと思ったのが、子どもの習慣づけということで、保育所、幼稚園と小学校をどうつないでいくかということ、子育て・こども課と学校教育課で協議できるかなと。あと、家で本を読ませたいとなると、生涯学習課関係の図書館審議会というのが</p>

<p>市長</p>	<p>ありますので、そこで10日なら10日と決めていただいて、図書館審議会で決まった「毎月10日は読書の日」ということを防災無線で流して、読書を推進することができるのではないかと。最後に、さきほど白石委員からありました市報などを通じて「読書リレー」などというもの、私は魅力的だと感じています。人と人とのリレーでも興味があります。なおさら、本の中身について知り得たら。この3つが実現しやすいかなと。</p> <p>そうですね。市報で、本の紹介はありますね。それよりも、読んだ人の感想が心に響くというか。「こういう本を読んで、こういう感銘を受けたとか」、「こういう本を読まれたどうですか」とか。</p> <p>振り出しに戻りますが、ふるさと納税のお金を、今後、使うということについては、今は、お礼品がふるさと納税の金額につながって、しかし、これからはお礼品が30%で抑えられるということであれば、ふるさと納税をしていただいたお金の使い道ということについては、教育に充てますよということと、子育てに充てますというところで、今後進めたらどうかというなかでの今日は議論しているところで、後はまた子育て・こども課と話をさせていただきたいと思いますが、そういうことからのスタートということですよ。</p> <p>そういうことで話をして、ふるさと納税のお金を教育に、まずは読書ということに予算を充てていくということに、前年度比何%ではなく、大きく予算措置のきっかけづくりということになると、子供向けの読書活動推進運動のひとつのキャッチフレーズといったものを設けるか設けないか。例えば「今日は何々の日です」という場合に、「家読の日ですよ」というのではなく。そういうことを市民に例えば公募するという方法もある。興味を、逆に、市民に関心をもってもらう手法としても大事ではないかと。</p>
<p>市原委員</p>	<p>キャッチフレーズとして「本を100冊読もう」というような、大きく出した方が、アピール度が高いかなというふうに思いますね。</p>
<p>市長</p>	<p>アピールする何かをですね。</p>
<p>平原委員</p>	<p>キャッチフレーズというか、から入っていかないと、唐突には。「子どもの夢を応援します」とか、松浦市の教育振興基本計画のなかにも読書のこととか入っていたらなお良いいかなとは思いますが。</p>
<p>市長</p>	<p>それは必要ですね。突然では何の意味かわかりませんからね。結局例えば、今回市において読書活動を推進すると、それはこういう想いで推進しますよというようなことは必要ですね。</p> <p>教育振興基本計画との整合性はとらなければならない。別計画ではないので。</p>
<p>文化財課長</p>	<p>ふるさと納税の事例が取り上げられていました。北海道のある自治体が、ふるさと納税は全て教育に使うという事例が取り上げられていました。例えば、吹奏楽の楽器を買うことから校舎の新設、読書活動、子育て支援活動。それしか使わないと。それで、人口も増えている。保育料も無料と。そこまでやっついて、高校生までの医療も無料。今までもやっていることなのですが。読書も重要なことなのですが、それを包括しつつ、幅広くすると、保育料を無料にする、待機児童ゼロ、認定保育園には百数十人来ていると。そこでもものすごい雇用が出ていると思いま</p>

島田委員	<p>す。話が飛躍するのですが。</p> <p>活用方法としては、教育というのは、まちづくりの根幹として、読書もそうなのですが、大きいものがある中で、「今回は」というような PR してはどうか、と思うのですが。最終目標があつてというか。</p> <p>ふるさと納税の使い道として、教育に使うということですね。先ほど申しましたように、講師派遣料とか、そういったものにも使えるわけですよ。先日の福島中学校での松尾アナウンサーの講演に行ったときに、議員さんも聴いています。小中学生に聞かせたいなという話もありました。子育てという話も結構あつたんですよ。</p>
生涯学習課長	<p>振興基本計画というのもあるのですが、松浦市子ども読書推進計画があるわけです。これの第2次版を作り上げていくという流れの中で、総合教育会議で取り上げていただいたことを踏まえて、次につなげていくための下準備ではないけれど、子どもたちをメインに、今出たことを具体的に押さえていくという作業をしたいなと思います。今までのような何%カットとか言うのではなくて。</p>
市長	<p>最終的には市民がですが。前段としては議会の議決を経て、しなければならないが、その前としては予算をつけなければならない。そのためには、何等か目指すものを示さないと、予算をつけようにもつけられないということではいけない。</p>
生涯学習課長	<p>「読書なんとか計画」というのがひとつ、「ど〜ん」とあれば、こういうことを含めて作り上げて、予算要求していけば一番いいのしょうけれども。これもありますので、これを膨らませていいのかなと思います。</p>
市長	<p>教育振興基本計画とか子どもの関係とか色々ありますが、そのエキスだけを引っ張り出して、一本に具体的にまとめて示していくという手法もあるかもしれませんね。</p>
教育総務課長	<p>生涯学習課と学校教育課と子育て・子ども課、それぞれ計画や方針をもっていますので、十分整理をして読書活動推進方針をとりまとめたいと思います。</p>
市長	<p>平原委員が申された「市民がわかりやすいような」、あるいは市原委員が申された「100冊読んだら表彰する」とか。あと、市報では本の紹介だけではなくて、感銘を受けた人の紹介をしていく。何でもそうですが、これをすれば決定だということはないと思います。</p> <p>市民あげての読書活動の推進については、基本的にはそういう方向を目指していくということにして、まずは、子ども。保育園、幼稚園から小中学生を対象とした読書の習慣づけということについて取り組んでいく。そのためには、今、ご意見をいただきましたので、今やっていることに更に磨きをかけることと、新たに展開できることも進めていこうと。そして、そのためには、ひとつの、市民に理解されるような表現、文書なんかを作っていこうということにして。結果的には今までの予算のような、年間何%増、カットとかいうことではなくて、抜本的な見直しといたしますか、予算付けができるような計画といたしますか、推進に結び付けていくようなことを4課でまとめていただいて、それをもって。幸いにして教育委員会は毎月ありますからですね。決まった段階でまた「総合教育会議の議論をこういうふうにとまとめた」ということは報告してい</p>

<p>市長</p>	<p>ただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>この件についてはこれで終わります。</p> <p>ここで、休憩します。</p> <p>～～ 休憩 ～～</p> <p>再開します。市内小中学校の配当予算について、ご協議いたしたいと思ひます。おかげさまで、学校整備等が進んできておひまして、今後はやはり学力向上に繋げていかなければならないと思ひておひます。そのためには、学校現場でのその学力を高めるための色々な資料代とかいうものの予算の確保に努めていかなければならないと思ひておひるところでございます。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>教育委員会で現状の予算の状況と今後どのような予算の計上をしたら、子どもたちの学力向上に繋がるかということについて、県内の市町の実情と照らし合わせてご意見をいたしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。教育総務課からお願ひします。</p> <p>それでは、資料3について説明いたします。</p> <p>学校へ配当する予算については、議会においても他の自治体と比べて少ないのではないかと指摘をいただひておひましたので、現状把握のため、6月に予算配分調査を実施しまして、県内全市町から回答をいただひておひます。</p> <p>調査項目につきましては、①小学校、中学校それぞれの数と、児童・生徒数②学校管理費、教育振興費のうち、学校へ配当している予算額③過去3年における学校への予算配分の動向ということで照会をかけておひます。</p> <p>各市町からの回答を受けまして、学校管理費と教育振興費を小学校、中学校ごとに合算し、児童生徒一人当たりの配分額に置き換えて算出しておひますが、今回の資料では、配当予算の中に占める割合が多い消耗品費、印刷製本費、備品購入費について、本市が県内でどの位置にあるのかを出しておひます。</p> <p>なお、自治体によって、予算配分の手法が異なっておひますので、この結果につきましては一応の目安ということで見ただひければと思ひます。</p> <p>結果でございますが、小学校における児童一人当たりの消耗品費は県内21市町で松浦市は15番目。印刷製本費は県内20番目。備品購入費は県内15番目となっております。</p> <p>また、中学校における生徒一人当たりの消耗品費は県内12番目。印刷製本費は県内19番目。備品購入費は県内16番目ということで、小学校、中学校とも配当予算については、県内下位に位置しているという状況でございます。</p> <p>2頁、3頁をご覧いただきたいと思ひますが、棒グラフで各自治体の予算額を示しておひます。傾向を見ますと、小値賀、佐々、平戸、佐世保といった県北自治体の学校配当予算は、本市と比べますと総じて多い結果となっております。後ほどの学校アンケートにありますけれども、県北地区の他の自治体の学校予算が、本市と比較して手厚いことが、現場における不満につながっているものと考えられます。</p> <p>なお、小値賀町が突出して高い予算額となっている理由ですが、管理</p>

<p>市長</p>	<p>する学校数が少なく予算を集中できることに加えまして、教育委員会の手持ち予算を残さずに、全額学校へ配当し、学校で執行管理を行うという独自の手法をとられているためではないかと考えられます。</p> <p>1 頁に戻りまして、過去3年における学校への予算配分の動向ですが、「増加している」と回答したのが2つの町。「横ばいである」と回答したのが5市3町、「減少している」と回答した自治体は8市3町となっています。</p> <p>4 頁、5 頁には平成28年度の各学校への配当実績、また、6 頁、7 頁には予算配当基準ということで記載しております。各学校への配当予算については、本市が財政健全化に向けて全市的に物件費の削減に取り組んでいることから、学校配当予算も近年は減少傾向にあります。</p> <p>8 頁から11 頁にかけては、市内の小中学校に配当予算に関するアンケート調査を実施した際の声をまとめております。今回は、需用費の中でも配当割合が高い消耗品費の配当額について尋ねておりますが、印刷製本費や備品購入費、また、樹木の剪定等にかかる手数料など、消耗品費以外についても全体的に不足しているとの回答がっております。</p> <p>加えて、ここ2年でICT機器整備を行っておりますが、整備に伴いまして電子教材の購入に関する要望が増えているような状況でございます。</p> <p>教育総務課としましては、これまで、学校便場においても、市の方針に沿って物件費の抑制を図らなければということで、各学校には厳しい予算の中でやり繰りをお願いしておりましたけれども、現状のままでは、学校運営が難しいという声がほとんどでございましたので、この状況を少しでも改善できるよう、財政部局とも十分協議を行う必要があると考えているところです。</p> <p>資料3の説明は以上でございます。</p> <p>市内小中学校の配当予算について説明がありました。</p> <p>物件費、特に松浦市の場合は、陸続きでない合併をしたということもございまして、そういった特殊事情があるわけでもございまして、合併効果がなかなか難しいと。どうしても物件費等が割高になっていることを踏まえまして、一律にカットさせていただいたところです。市全体から言いますと、非常に物件費が高い、他の自治体に比べて。ところが、教育関係の配当予算は、他市町に比べて少ないというのは、一律カットをしてきたことが原因でなって、今、申し訳なく思っております。やはり、これまでの役所としての削減をここで止めて、「教育関係は別だ」というところをちゃんと、根拠づけといいますか予算を認定する担当課に、「松浦市の宿命として物件費が高いということはある。それはどうしても削減しなければならぬと思うが、教育関係については一律カットの対象から外してやっていく」ということを示して、財政当局が「それならこれは一律カットから外す」ということを今後しっかりとやっていかなければならないということで今回、この総合教育会議の中で「市内小中学校への配当予算について」ということの認識をしていただくために議題としてところでございます。</p> <p>それぞれの学校からの意見ですが、説明にあったとおり、市外から転勤された方の意見は共通して「なぜ、こんなに少ないのか」ということ</p>
-----------	--

島田委員	<p>ろがあると。それは先ほど申しましたところからきています。</p> <p>学校現場にいた経験から申し上げさせていただければと思います。やはり学校の中では、調査の中にも書かれています印刷製本費は県内でも下位のほうに来ている訳でございます。小学校が20番目、中学校が19番目となっております。印刷製本費は子どもたちに係ることでございますし、職員同士が研修で得てきた内容を先生たちと共有するために印刷製本して配ると。非常に大切なことです。これまで、私がいた時は他の科目から流用して支出するということがありました。やはりそういうところから、印刷製本費あたりから見直せたらと思います。これがまた学力向上にも繋がると思います。</p>
市長	<p>現実として、予算が無いとして、どうしてもこれは印刷物として子どもに配付したいとか、研修に行つて先生方に見てもらいたいとかいう中で、自腹でという先生もおられるわけですかね。</p>
島田委員	<p>自腹は無いと思います。できるだけコピーせずに輪転機にかけるとかして経費を抑える。</p>
教育長	<p>私は理科などで教材が足りない時に自分でお金を出して買ったりとかいうのも実際にあります。研究大会などのときに参加費とかありますが、これは今年度から予算を付けていただくようにしています。これは非常にありがたいことです。自腹の部分は他の市町に比べて大変大きい。あと、学力に直結するものとして備品購入費ということで、教えるのに必要な備品が足りずに、わかりやすい指導ができない。といった部分もあります。</p> <p>ただ、その割には小学校の国語、算数も県平均より高かったりと、現場で頑張ってくれています。そういう意味でもなおさら、支援してあげたいと思います。</p>
市長	<p>予算配分が学力に直結しているということを訴えて、予算の確保に繋げて。どうしても前年度予算比で予算を決めていく。どうしても出と入りを同じにしなければならないものですから。入りが見込めれば出も良いのですが、入りが見込めない。</p> <p>今後このことにつきましても、配当予算が学力に直結するということをしつかり認識して、財政にも予算査定あたりは留意するように伝えたいと思います。そのためにはしっかりと、子どもの学力向上につながるようにしていただきたいと思います。この件についてはよろしいですか。</p>
文化財課長	<p>次に、郷土を誇りに思う歴史教育の推進について、文化財課から説明をお願いします。</p> <p>資料4をお願いします。</p> <p>平成29年度鷹島神崎遺跡アンケート調査結果報告で、松浦市内の小中学生、4、5、6年生、市内中学生すべてに対してアンケート調査を行っております。</p> <p>平成26年度にも同様の調査を行っております。当時と比較することを前提にこのアンケートを実施しています。</p> <p>まず、鷹島神崎遺跡を知っているかということで、2頁(2)①になりますが、44%が知っていると回答しています。前回の回答からすると2ポイント下がっている状況にありますが、ほぼ横ばいです。</p>

3頁、鷹島神崎遺跡を知った方法について、今年度の調査では「学校の授業」が最も多い結果となっています。前回の調査でいきますと最も多いのが「テレビ」でありまして、当時はメディアに出るとということが非常に多くあったということが伺えます。また、学校での授業の取り組み、働きかけもあったと思いますが、取り組みをしていただいた結果が伺えます。

次に5頁をお願いします。鷹島町への訪問先ということで、訪問先につきましては、図5-1が今回の調査ですが、モンゴル村、道の駅、埋蔵文化財センター、その他となっています。前回は、モンゴル村、道の駅、その他、歴民・埋蔵文化財センターと。下の表にあります、平成26年度の調査では、鷹島地区以外の児童生徒で、埋蔵文化財センター、当時の歴史民俗資料館に行ったことがあるというのが、全体の6.5%しかございませんでした。今は少しずつ活動することによって、ようやく1割を超える児童生徒が鷹島の埋蔵文化財センターに行っているという状況になっています。これも平成26年度から実施しております体験学習会、バスツアーでありますとか、そういったものによるものかと考えられます。

7頁をお願いします。松浦の出来事を知る方法について、なにがありますかというようなことを問うております。上の段と下の段を比べてみますと、前回と同様に松浦市の出来事を知る方法としては、テレビが最も多くなっています。ただ、今回特徴的といいますか、前回から減っているというのがあるのですが、インターネットだけが唯一増えて、情報収集方法としては増加しているという状況になっています。

資料1頁に戻っていただきまして、②アイウエオカで、体験学習会、出前講座、歴史講座等の実績を掲載しております。平成26年度福島小学校4～6年生の24名、御厨のスクールバスを利用しまして、夏休みの間に体験学習会を行いました。27年度に今福小、養源小、28年度に調川中ということで実施をさせていただきました。参加していただいて色んな意見をいただきました。「鷹島でこんなに多くの方が亡くなられた戦いがあったとは思いませんでした」とか、結局、いわゆる平和教育に結びつくような意見ですとか、「元との戦いで神風が吹いたことから、鷹島が神風の吹く町とよばれることが初めて知りました」とか。故郷のことで、歴史を語る上で元寇というのは重要な歴史の一つではあるのですが、地元でこういった遺跡であるとか遺物であるとか、こういった出来事が起こったことが十分に伝わっていない状況にあったと思われま

す。その他、文化財課出張出前講座で調川小、昨年は志佐小学校6年生を対象にスライドショーですとか、タブレットを持って行って実際にさわってもらったりとか、遺物を実際に触ってもらうようなことも体験していただきました。志佐小学校に関しましては79名いまして、スクールバスで移動するのは困難であることから、こういう方法をとらせていただいております。

上志佐小学校、青島小中学校では昨年度、保存処理。鷹島で出土した遺物は、海から上がった遺物ということで、保存処理をしなければ保存展示が出来ないということで、どういった保存処理をしているのかとい

<p>市長</p>	<p>うことの説明をしております。</p> <p>今年になりまして初めてのことなのですが、スクールバスを活用されて、今福中学校の1年生がフィールドワークということで、鷹島神崎遺跡についてということで、鷹島を訪れ学習をしています。</p> <p>資料③、平成29年度は同様な記載をしておりますが、いろいろな企画をしてPRをしていきたいと考えているところです。</p> <p>資料④、歴史教育の推進にかかる予算措置ということで、出来ましたら、郷土の歴史を知るということは、やはり、地域のアイデンティティといいますか、誇りといいますか、自分のルーツを知るのに非常に重要なことだというふうに考えております。できれば学校教育のカリキュラムとして含めてもらうとか。</p> <p>あと、郷土歴史教育を育むためのサポートの強化ということで、我々が出向くことは喜んで参上、行かせていただいているのですが、まとまった人数がいる学校ではなかなか現地に来てもらえない。一番のネックになるのが移動方法かなと考えています。そういったところをサポートできればと考えておるところでございます。以上です。</p> <p>郷土を誇りに思う歴史教育の推進ということで、文化財課長から説明がありました。</p> <p>自分たちが生まれ育ったところを誇りに思うということが大事なことだと思います。それには歴史というものが一番大切ではないかということ。実は、平成15年から修学旅行生の体験型旅行を受け入れておまして、おかげさまで、150校から200校で約3万人の受け入れをいたしております。生徒さんたちがそれぞれの地域に入っておられるわけですが、その人たちの言葉として、こういう素晴らしいところ、食べ物が美味しいとか、自然が豊かだとかいうことで、子どもさんたちが松浦を評価されることを受けて、高齢者の皆さん方が「何もない。自分たちとしては魅力を感じない」住み慣れた地域が、子どもさんたちの言葉によって「自分たちの住んでいる地域は捨てたものではない」と。「確かに素晴らしいところだ」ということで、自分の住んでいるところを誇りに思うようになったという話を聞いておまして。そういうことが将来的に住みよいまちといいますか、魅力ある地域になっていくのではないかという思いがしています。よそから来た人の話はそうですが。</p> <p>では、住んでいる人たちがということになると、歴史をしっかりと学んできたことによって自分たちの素晴らしい故郷を認識していただく。そのことが一度出られても、また故郷に帰ってきていただくということになるのではないかということで、今後、歴史教育については教育委員会でも力を入れてほしいと思っております。</p> <p>このことについて皆様方から、ご意見をいただければと思います。</p> <p>元寇の調査というのはだいたい体系づけられたというか、今後ある程度、池田教授が発掘、保存は確定はしていませんが、方向付けは見えてきておまして、今後の課題は、それをどうするのか、活用ですね。引き上げるのか、そのままということにするのか結論は出ていないわけですが、願わくは、引き上げて、しっかりとした保存処理をして展示する。そして、そのことがこの地域の活性化に繋がるということにしなければならぬと思っております。もう一つはやはり、</p>
-----------	---

<p>教育長</p>	<p>世界に誇れる歴史があるということをどう知ってもらうか。まずは、市民に知ってもらう、子どもたちに知ってもらう、そのことを土台にして、地域の皆様、国民の皆様を知ってもらうというふうにしていかなければならないと思っておるところでございます。</p> <p>昨年度、中学生と一緒にバスに乗って、埋蔵文化財センターへ行って、子どもたちは「てつほう」を見て、「あの教科書に載っていたのがこれですね」と、実物を見てすごく感動していました。礎石の大きさ、予想される船の大きさを、実際そこに行ってみることによって、実感して、「それだけすごいのが、ここにあるんだな」と改めて。子どもたちが感激しているのを目の当たりにして、やはり松浦市民であるかぎりには小中学生のうちにも少なくとも一回は実物を見せなきゃいかんなど実感しました。そういう意味でも、実際、今の中学3年生でも見ていない子がほとんどなのです。鷹島以外は。今年度は行っても25名くらいしかバスに乗車できないものだから、今後は何が何でも、それを実現したいと感じたところです。</p>
<p>島田委員</p>	<p>一回は埋蔵文化財センターに行くべきだと思います。やはり故郷の、故郷の子どもたちの教育ということですから、まさにふるさと納税の使い道としていいのではないかと思います。さきほど、移動費ですね、スクールバスで何往復もするわけにはいかない。ふるさと納税を活用してはどうかなあ、と思います。</p>
<p>市長</p>	<p>歴史教育、元寇というのも教育の一環だとすれば、メニューの中に入れて、しっかりとそういうふうにしていかなければならないと思います。</p> <p>教育長が申されましたとおり、実際に現場で見ると、それで一生忘れられない、印象付けになると。機会をつくるといいますか、場を提供するための仕掛けをどうするということになると、お金ということになってくるかと思えます。</p>
<p>市原委員</p>	<p>全体的になにかございませんでしょうか。</p> <p>そこに元寇船が沈んでいるということは、みなさん周知しているところですが、どうして元寇が日本に攻めてこなければならなかったかと。その歴史というものをあまりご存じない方が多いんですね。幸い観光ボランティアの方もいらっしゃいますし、松浦党とか元寇の2回の役までの、沈没船ではなくて、元と日本の関わり合いで、こういう戦が始まったということを学習といいますか、その学習が必要ではないかと思っています。</p>
<p>市長</p>	<p>戦いの原因も大切ではないかということですね。</p> <p>今年度採用職員と話したのですが、今しっかりと基礎を学んで、大きく成長していかなければならないと。まずは基礎。生い茂っている草は根がしっかりとしている。4月に入庁した職員にはしっかりとした基礎を学んでほしいと思っています。応用もできるようになると思えます。</p> <p>全体的に何かございませんか。</p> <p>特になければ、事務連絡等ありますか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>今回の項目で、市民あげての読書活動推進については、先ほどご指示をいただきましたので、関係課等で整理をして、検討してまいりたいと思います。</p> <p>総合教育会議は、毎学期1回の開催ということにしておりましたので、</p>

市長	<p>夏休み明けから12月にかけて、どういった時期になるかわかりませんが、2回目を開催しますのでよろしくお願い致します。</p> <p>以上をもって平成29年度第1回総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。</p>
----	--